

環境レポート概要版の構成及び活用案

1 環境レポート概要版の現状及び今後の方向性

環境レポート概要版の現状

- 京都市環境基本条例（第 8 条）に基づく年次報告書「環境レポート」の概要版
- 発行目的 **環境教育・学習の教材としての活用**
本市の環境の**進捗状況を分かりやすく発信**
- 発行状況 毎年度発行，最新版（令和3年3月）は7,000部，A4版6ページ
- 配布先 「さすてな京都」を**社会科見学した小学4～5年生に配布（6,000部）**
環境政策局が実施する**環境学習で配布**
公共施設での配架
市民向け啓発冊子として**ホームページで公開**
さすてな京都の入り口近くにあるデジタルサイネージでも常時表示
- 内容 **小学4 学生以上の児童が学習し，家庭での話題となるよう工夫**

今後の方向性

冊子の配布・配架だけでなく，SNSでの発信や環境学習資料として活用拡大
学習会など，冊子の配布と講座をセットで効果的に活用

最新（令和3年3月発行）の構成 （A4版6ページ）

<全体の構成>

- 表紙
- 地球温暖化への対策は進んでいる？（p1）
- 大気や河川の水は安心・安全？（p2）
- 恵み豊かな自然環境は守られている？（p2）
- ごみの量は減っている？（p3）
- 「DO YOU KYOTO?」チェック表（p4）
- 環境学習施設の紹介（p5）

<各分野のページに掲載している事項>

- 各分野の説明
- 施策の進捗状況として客観的指標等をイラスト等を用いてわかりやすく掲載
- 「ごみ減量の推進」のみコラムを掲載

4 ゴみの量は減っている？

関連する主なSDGs

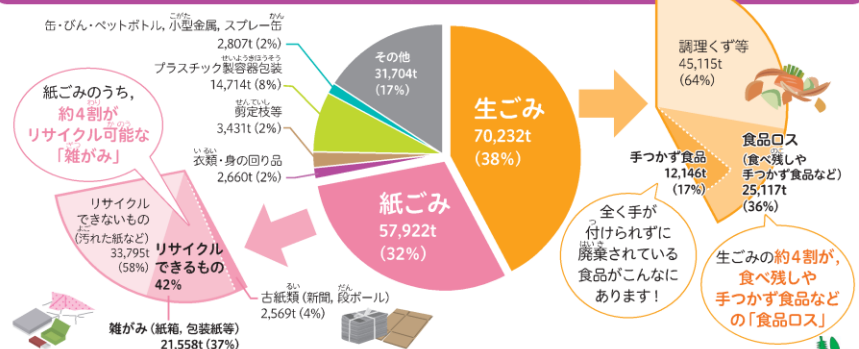


京都市のごみ量の推移



ピークの時からたくさんごみが減っているけど、引き続き減らしていく必要があるね

京都市の家庭から出る燃やすごみ（約18万トン）の内訳（2019年度）



食べ残しをなくしたり、雑がみの分別を進めることで、もっとごみを減らせるね

コラム「食品ロス」ゼロに向けて

料理の食べ残しや手つかず食品など、本来食べることができたのに捨てられている「食品ロス」は、京都市では年間約6.1万トン、日本では年間約612万トンも発生しています。これは、国民一人一日当たり、お茶碗1杯分の食べものを捨てていることになります。

京都市では、ご家庭や事業所から発生する生ごみの約4割が「食品ロス」という現状を踏まえ、「食品ロス」を更に減らすために、取組を進めています。

他にも……

「京都市食べ残しゼロ推進店舗」、「販売期限延長の取組」など、様々な取組を行っています。詳しくは、専用ホームページをご覧ください。

京都市食品ロスゼロプロジェクト

取組の一例

「食品ロスZEROマスター」（食品ロス削減啓発オリジナルカードゲーム）
小学生から大人まで幅広い世代が、食品ロスが発生する理由と、発生させないために取るべき行動を、楽しみながら学べるカードゲームです。

食品ロスZEROマスター

検索



3 令和3年度の環境レポート概要版の構成案

構成案（主な変更点）

- **1分野1ページに変更**
→ SNSや電子掲示板などで情報発信ができる
- **各分野に主な取組又はコラムを掲載**
→ 本市の施策を発信
→ 行動に向けた動機となる内容
- **市民の皆様にくらしの中で取り組んでいただきたい内容を各分野のページに掲載**

1 分野 1 ページのレイアウト案

タイトル：問いかけ（最新版と同様）

説明文（最新版と同様）

施策の進捗状況（客観的指標）

- ・ グラフ、イラストを多用（最新版と同様）
見て理解しやすい表記
- ・ **本市の取組又はコラム（新規）**
実践する動機となるような内容
1つの問題が多分野で、広範囲・長期的に影響する内容
（例：使い捨てプラスチック問題）

市民の皆様にくらしの中で取り組んでいただきたい内容（新規）

DO YOU KYOTO?チェック表を参考